

宮城大学における学生ボランティア活動について

長澤治夫

宮城大学看護学部

キーワード：ボランティア、大学教育、地域社会

要 旨

宮城大学の学生のボランティア活動を支援することを目的に、ボランティアサークルの創設、ボランティア活動に関する情報提供を行った。また、平成13年度に行われたボランティア活動について報告し、学生ボランティア活動の問題と課題について考察した。

Volunteer Activities by Students in Miyagi University

Haruo Nagasawa

Miyagi University School of Nursing

Key Words : Volunteer, University Education, Community

Abstract

I founded a student volunteer circle and provided many useful information about actual activities in order to support volunteer activities by students of Miyagi University. I reported various volunteer activities by students until March, 2001 and discussed some problems about volunteer activities by students.

【はじめに】

宮城大学は開学以来「高度な実学」を教育理念の大きな柱にしているが、大学内での講義や演習のみではなく広く地域社会にも学習の場を求めるべきと考える。大学内には、キャンパスレンジャーなど学内の清掃などのボランティア活動はこれまでにに行われているが、地域社会でのボランティア活動については個人のレベルでは行われてはいるものの、大学として積極的に関わっていないのが現状である。また、ボランティア活動に積極的に参加したいと考えている学生はいるが、どのように行動したら良いかわからないまま過ごしている学生もみられる。本稿では、より多くの情報を提供して地域社会において学生のボランティア活動を支援し、ボランティア活動が行われやすい環境を整えてきたので、この1年間に行った活動状況を報告する。

【目 的】

宮城大学に在籍するすべての学生が、自らの意思で行うボランティア活動を支援するために、情報提供や活動の環境整備を行うのが目的である。

【方 法】

(1) 宮城大学ボランティアサークル“マクギル”の

創設

平成13年7月 宮城大学看護学部4年生の有志が中心になり、宮城大学ボランティアサークル“マクギル”を創設した。サークルの顧問には、看護学部 長澤治夫教授、事業構想学部 宮原博通教授が就任した。

初代のサークルの部長、副部長には、看護学部4年生が就任し、4年生が中心になり、サークルの規約を整備し、学生部に提出して学生会のサークルとして申請し、受理された。サークルの構成員の勧誘には、4年生が中心になり、ポスター作製などを行い在学生に広く呼びかけ、看護学部1～4年生、事業構想学部の学生がサークルへの参加登録を行った。各学年にボランティア活動のキーパーソンとなる代表者を選出した。平成13年9月末日で、53名の学生がボランティアサークルに登録した。

(2) ボランティア活動の情報提供

表1に示すごとく平成13年7月末までにボランティア活動についての情報提供を行った。ボランティア活動に関する情報も学外から多く寄せられていたが、学生が活動しやすい活動内容によって選別を行った。

表1 ボランティア活動の情報提供（平成13年7月末まで）

1	難病のこども支援全国ネットワーク主催 セタキャンプ “がんばれ共和国” 平成13年8月10日～12日 宮城県蔵王町遠刈田温泉「蔵王ハイツ」
2	1日体験ボランティア 難病のこども支援全国ネットワーク主催 セタキャンプ “がんばれ共和国” 平成13年8月11日（土） 宮城県蔵王町遠刈田温泉「蔵王ハイツ」
3	東北大学医学部附属病院 院内ボランティア 講習会開講日程：平成13年9月22日 活動分野：1、緩和ケアセンター内での活動 2、リハビリ病棟での活動 3、院内図書活動 4、その他
4	(財)ライフプランニングセンター ピースハウスホスピス ボランティア研修 平成13年8月30日～9月1日
5	在宅療養の患者さんおよび家族への生活支援ボランティア活動仙台往診クリニックの往診を受け、在宅療養している患者さんおよび家族に対する生活支援活動
6	第25回「死の臨床研究会」開催のためのボランティア参加 平成13年11月17～18日 仙台市民会館
7	ハンディーキャップを持つ子どもの放課後クラブ「ピーターパン」 場所：仙台市泉区南中山

【結 果】

平成13年8月～平成14年2月までに実際に行ってきたボランティア活動の概要について述べる。

(1) 難病のこども支援全国ネットワーク主催七夕キャンプ “がんばれ共和国”

日時：平成13年8月10日～12日（2泊3日）、
場所：宮城県蔵王町遠刈田温泉「蔵王ハイツ」
宮城大学からの参加者：看護学部教員1名、看護学部4年生5名、計6名が参加した。

“がんばれ共和国”は「友達つくろう」の合い言葉に、医療のバックアップの中でしっかりと大自然につかり、遊ぶ喜び、歌う楽しみ、そして友達と触れ合いを体験してもらい明日から病気とたたかう勇気をつちかってもらおうとするものである。難病や障害のあるこども達も、きょうだい達も、親達も、そしてボランティア達も、全員が沢山の友達をつくり楽しい思い出を残せるよう盛りだくさんの企画が用意されていた。

今回は在宅療養をしている30名の難病のこどもとその家族、医療スタッフ、ボランティアも含めて総勢178名が参加した。宮城こども病院（仮称）に就職して現在研修中の第1期生2名、養護教諭として活躍している1期生1名も参加した。

(2) 1日体験ボランティア活動

難病のこども支援全国ネットワーク主催七夕キャンプ “がんばれ共和国”

日時：平成13年8月11日（土）、場所：宮城県蔵王町遠刈田温泉「蔵王ハイツ」

宮城大学からの参加者：看護学部教員4名、看護学部4年生3名、2年生6名、1年生5名、計18名が参加した。宮城大学の看護学部教員5名、卒業生（1期生）3名、4年生8名、2年生6名、1年生5名と教員、卒業生、各学年の学生がそれぞれチームになって、難病の子どもたち、兄弟、親とボランティア活動をとおして交流できたのは大変良かった。

(3) 音楽療法によるボランティア活動

宮城大学看護学部 佐治順子教授らのグループにより、富谷町の老人保健施設で、毎週月曜日の午後 老年痴呆の入居者を対象にして音楽療法をおこなっている。音楽療法に関心のある学生が参加している。また、神経難病のパーキンソン病の

患者、ダウン症児、自閉症児を対象にした音楽療法も宮城大学で定期的に行っており、それぞれ関心のある学生が積極的に参加している。

(4) 在宅療養を行っている神経難病の患者会との対話集会

神経難病のなかでも特に重篤な経過を辿る、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の患者さんとご家族の在宅療養を支援することを目的に、患者会の皆さんとボランティアサークルの学生が、平成13年9月29日（土）宮城大学で対話集会をおこなった。どのような生活支援ができるか、どのようなボランティア活動ができるか、などの話の中で患者さんからはコミュニケーションの手段として、パソコンの指導をして欲しいなどの要望もあった。

(5) 事業構想学部の宮原博通教授は、ボランティア活動の1つとして「希望の森計画2001」植樹事業を計画した。平成13年10月21日（日）、宮城県鳴子町石の梅地区にミズキの苗木300本を植樹した。ミズキは鳴子町の町木で、こけしの材料として使用されている。鳴子町の各団体青年部とともに宮城大学の学生も参加した。地域の活性化のため宮城大学の学生と地域住民との交流が行われた。

(6) 宮城大学のボランティア活動を広く知らせる目的で、学生のボランティア活動の体験記録、ボランティア情報などを掲載した広報誌（A4サイズ、4ページ）を作成した。

第1号は、看護学部の学生が主に取り組んできた、看護・介護・医療福祉の分野でのボランティア活動を中心に掲載した。第2号は、事業構想学部の活動を中心に都市計画や地域活性化の活動を紹介した。

(7) 宮城大学大学祭でのボランティア活動の紹介

平成13年11月3～4日に行われた宮城大学大学祭でこれまでに行ってきたボランティアサークル活動の写真展と広報誌の配布を行い、宮城大学の学生、教職員、大学祭を訪れた地域住民の皆さんにボランティア活動の取り組みを紹介した。学外から大勢の市民が訪れて宮城大学ボランティアサークル活動の写真展を観察した。

(8) 第25回日本死の臨床研究会年次大会に参加

平成13年11月17、18日、第25回日本死の臨床研究会年次大会が仙台市民会館にて開催された。こ

の研究会は死を迎える患者や家族の援助を全人的に考えることを目的に、医療者、教育者、宗教家、法律や経済専門家、ご遺族を含む一般市民の方々など幅広い分野で構成されている。今大会は全国から約2000名が集まり、大会運営には県内外の医療施設、教育施設から総勢150名のボランティアが参加した。宮城大学からは、4名の教員と看護学部の学生26名の学生ボランティアが参加し、会場の運営やクローク、来場者の案内や応接など様々な部署で活躍した。

(9) 東北大学医学部附属病院緩和ケアセンターでのボランティア活動

東北大学医学部附属病院緩和ケアセンターは、宮城県では光が丘スベルマン病院ホスピス病棟について平成12年10月に設置された緩和ケア施設である。緩和ケア病床数は全国でも1800床に満たず、在宅ホスピスの支援を含めこれから整備がなされていく分野といえる。現在このセンターにボランティアとして宮城大学からは終末期医療に関心がある学生13名が登録しており、それぞれ活動中である。

【考 察】

これまでボランティア活動に関心を持っていたが、どのように行動をして良いか分からなかった学生、広く地域社会と活動をとおして出会いの場を求めたいと考えていた学生たちが、自分たちの意志で自由に参加・体験できる機会として、ボランティアサークルを創設し、実際の活動をスタートさせた。

この活動は、学生のボランティア活動を支援し、ボランティア支援を必要としている社会との橋渡し、“コーディネーター”としての役割も担っている。大学には、知識も、人材も、研究費も集まるであろう。しかし、そのアカデミズムの周囲には、不況や貧困や医療・福祉、環境破壊などの問題が存在する。大学はそうした問題に対し、学生をただマンパワーとしてボランティア活動や肉体労働に駆り立てるだけでなく、学生の主体性を尊重しながら大学本来の使命として支援し、さらには諸研究と結びつけ、地域社会の問題解決のために貢献することが大切である。

学生たちは、(1) 学習の深化と学習成果の応用と

発展のため、(2) 自己への理解とよりよい生き方の発見のため、(3) 生活環境や社会問題の理解と社会への参加のため などさまざまな動機と目的をもってボランティア活動に参加するのである。

この研究をとおして、将来宮城大学は学生ボランティア活動が盛んな大学とのクレジットを得られればと期待している。今回は時間的な制約から、ボランティア活動の評価および検証までは至らなかったが、まずは活動の継続性が必要と思われる。学外の反響も大きく今後の活動を見守っていきたいと考えている。

最後に本報告は、主として宮城大学特別研究「宮城ボランティア組織の確立と活動の検証に関する研究」において行った内容であり、平成13年度宮城大学特別研究補助金（指定研究96号）によって行われたことを附記します。

【参考文献】

- 1) 「わかる・みつかる・できる」学生のためのボランティアガイド、(財)内外学生センター編、1999
- 2) 大学とボランティア スタッフのためのガイドブック、(財)内外学生センター編、2001
- 3) 中嶋充洋、ボランティア論、共生の社会をめざして、中央法規出版、1999
- 4) 堀田力、堀田力のふれあいボランティア・ガイド、学生も、企業人も、シニアも、さわやか福祉財団編、三省堂、1995
- 5) 学生のボランティア活動推進に関する報告書、(財)内外学生センター編、2001